

## 黒沢映画「乱」の 合戦シーンの甲冑を全部つくった

鎧・甲づくりのパイオニア、丸竹産業㈱

山田 龍雄

(よかネットNO.62 2003.3)

—2 モノづくり産業

この鎧・兜の製造メーカーは、鹿児島県川内市にある。平成2年には戦国村というテーマパークも開設しており、今回、取材で訪れた本社・工房は市街地の中心部から北側約2kmのところにある。私たちが何うと、経理部担当の福山さんが早速、応接間に通してくださった。すると、応接間の隣の展示室に鎮座している数10体の鎧と兜が目飛び込んできた。

「これは昨年のNHK大河ドラマ、利家とまつで唐沢寿明が着ていたものです。これは同じく大河ドラマで家康に扮した津川雅彦が着ていたものですが、できるだけ軽くして欲しいと注文があったのでアルミ製にしています。これが鹿児島・菱刈町出身の榎木孝明さんが主演していた「天と地と」の上杉謙信役で着たいもの、これが福島正則、これは黒田長政の兜です。……………」と次から次に時代考証も兼ねた説明が加えられ、その説明に圧倒され、改めて日本の鎧・兜の美しさと当時の武士の美意識のすばらしさに感動してしまっ

### 釣り具からの転換、前社長の趣味からスタート

この会社の経歴はユニークである。会社名からも想像されるように、元々昭和34年に竹製の釣り具メーカーとして始められた。昭和40年代初めにはグラスファイバーなどの新素材の釣り具が製造されるようになって、急激に売り上げも落ち込んだことから、昭和48年に鎧・兜製造メーカーへ転換している。

業種転換のきっかけは、前社長（現会長）の鎧・兜をはじめとした骨董収集の趣味で、鎧・兜なども自前で修理をしていた。

また、釣り具メーカーをしていたころ、出水市の腰矢（こしや）という伝統的弓術を継承している人たちが、ちゃんとした鎧・兜を着て行事を行いたいという要望があったことから、前社長にお声がかかり、鎧・兜を製作したそう

だ。さらに、京都の映画製作会社からも骨董会（骨董収集の集まりの会）からの口コミで鎧・兜づくりの依頼がくるようになったことなどから、将来、需要はありそうだという読みが業種転換のきっかけになったらしい。

### 鎧・兜づくりでは全国90%以上のシェア

昭和30～40年代初頭の日本映画全盛時代の鎧・兜はどうしていたのか聞いてみると、「あの当時の映画界では本物の鎧・兜を収集・使用していて、一から造ることはしていなかった」とのこと。この当時、注文どおりの鎧・兜づくりにチャレンジしたという意味では、まさに鎧・兜づくりのパイオニア企業であり、この早めの業種転換によって、今では他の企業を寄せ付けないオンリーワン企業として全国シェア90%以上を誇っている。

経歴書を見ると、昭和52年の加藤剛主演の大河ドラマ「草燃ゆる」をはじめ、歴代の大河ドラマは全て手がけており、映画では「真田幸村」「影武者」「乱」などで製作している。特に黒澤明監督の「乱」の戦闘シーンに出てくる数多くの鎧・兜を揃えるのは、この会社の存在なしには出来なかったと思われる。

この会社の主要な業務分野は別表のとおりである。主なものはTVや映画関係社への販売業（現在、年間の鎧・兜づくりの件数は概ね200～300体）をはじめ、祭りやイベントのリース業と節句の子供用鎧・兜セット販売などである。ちなみに子供用の鎧・兜セットは1体20～30万円であるが、少子化時代の反映か、子や孫のお祝いなどに結構売れているらしい。

イベントの時には、単にリースをするだけでなく、演出から参加者への着付けまでも行うようになり、熊本の祭りでは3～4人で300体の鎧・兜の着付けをしたそうである。リースできる鎧・兜は戦国村に常時400～500体のストックがあるそう

また、突然、愛知県の不動産会社の社長さんが訪ねてきて、織田信長の鎧・兜を造って欲しいとの注文があった時は、織田信長の本物の鎧、兜が保存されている神社の許可を得て、まさに本物そっくりに製造したそう。ちなみにお値段は400万円である。要望によっては、組み紐の色などを染め方で古く見せることもできる。

#### これからは直接仕事を獲得する営業方針へ

現在、年間売り上げ額は3～4億円程度である。以前は数百単位での注文があった映画・テレビの需要が売り上げを支えていたが、映画会社も不況のため大作の時代劇を作らなくなったことから、売り上げも伸び悩み気味ようだ。2代目の現社長は、これまで祭りなどへのリース業の場合は、イベント会社や人形メーカーなどからの委託で仕事をしていたのだが、これからは直接仕事を獲得するよう、営業転換を図ることを今後の目標にしている。また、新たな仕事獲得のため、祭りを盛り上げるための企画、台本づくり、祭り前日の立ち回りの指導など、他の会社がまねできない事にチャレンジしている。

会社を起こしてから製造のノウハウを確立し、人材を養成するまでは、大変な苦労があったのではないかと想像されるが、現在は、製造部分はほとんど内部で作業をしており、鉄板加工担当、鎖取り付け担当などパーツ毎の作業工程となっている。従業員は約50名で、うち10名が販売・経理担当、約40名の方が製造部門に携わっておられる。戦国村の方は、小道具などを造っている高齢者の方が多いが、本社・工房での従業者の平均年齢は30代前半と比較的若い。甲冑好きな人がインターネットを通じて就職を希望して訪れることもあるらしいが、手先が器用なことが採用の重要な条件となっているらしい。

これから大河ドラマや時代劇を見るときは丸竹産業を思い出すことになりそう。これからも若



迫力ある鎧・兜

#### 丸竹産業㈱の業務分野

- 衣装・小道具製作
  - ・刀、槍、毛槍、薙刀、鉄箱
  - ・大名駕籠、御輿、陣羽織、袴、鎧下着等
- 甲冑の修復、写製作、卸・販売
- 等身大ロウ人形製作
- 甲冑レンタル事業
  - ・全国お祭りへの甲冑レンタル業
- まつりの企画
- 甲冑の着付
- 観光事業
  - ・テーマパーク戦国村

い人材を活かして、鎧・兜のパイオニアとして頑張っていただきたい。鎧・兜に興味のある方は、記念に一度訪ねられてみてはどうでしょう。